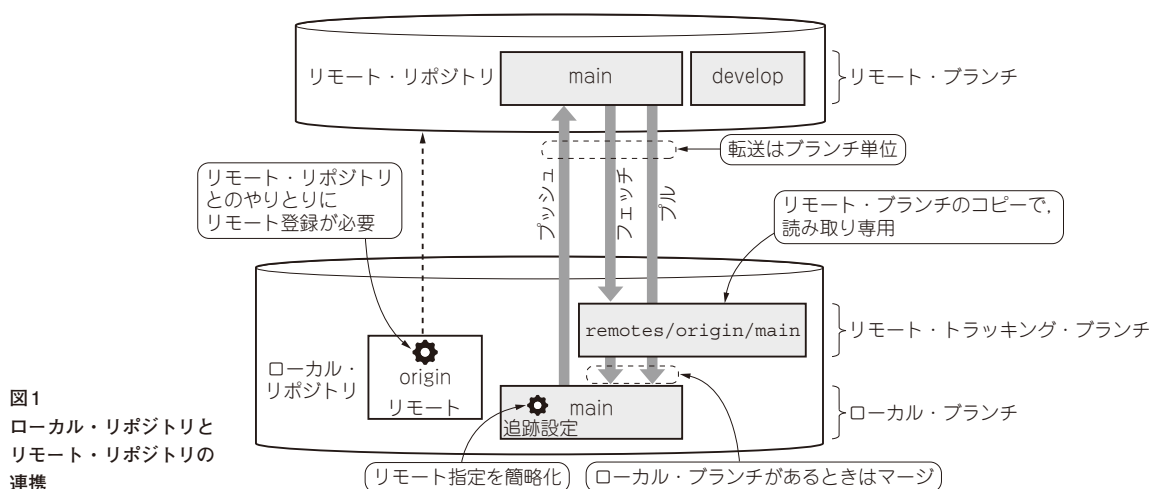


もっと深掘り！ Git & GitHub

第4回 リモート機能プッシュ/フェッチ/プルを試してみる

松岡 貴志, 高瀬 英希



本連載では、Git/GitHubを継続的に安心して使いこなせるようになるための機能やテクニックを解説しています。

これまでの連載記事では、バージョン管理や変更履歴の検索など、ローカルPCでの作業で使えるGitの機能を紹介してきました。これらの機能だけでも価値はありますが、やはりGitはサーバなどにあるリモート環境と連携してこそ真価を発揮します。

今回は、図1に示すようなGitのリモート機能について解説します。

リモート・リポジトリとやり取りを行う「プッシュ」と「フェッチ」、ローカルとリモートの状態を同期する役割を持つ「リモート・トラッキング・ブランチ」、ブランチを追跡するための機能、さらにリモートの変更を取り込む「プル」について紹介していきます。

Gitのリモート機能

● できることと嬉しいこと

Gitのリモート機能は、ローカルのリポジトリとリモートのリポジトリを連携する機能を提供します。

リモート・リポジトリとのやりとりは、先にリモート・リポジトリのURLに名前を付けて登録しておく、この名前を使ってプッシュ(アップロード)やフェッチ(ダウンロード)を行います。ここではこれをリモートと記します。

リポジトリ同士のやりとりはブランチ単位で行われます。Gitのリモート機能を使うと、サーバやクラウド上のリポジトリにバックアップを取ったり、これをローカルにリストアしたりできます。

また、複数のメンバーでリモート・リポジトリを共有することで、変更内容を同期・管理したり、チーム開発を効率的に実現したりできます。これにより、安全なデータ管理と共同作業がスムーズに進む環境を整えることができます。

● リモート機能のためのGitHub

Gitのリモート機能を使うためには、やりとりする相手先の環境を用意する必要があります。

例えば同じ会社や所属内にあるサーバやクラウド・サービスなどがありますし、同じPC内の別ディレクトリに用意することもできます。